

【農業技術情報】

## 「愛媛果試第 28 号」の高品質生産について ～ネック果の抑制は荒摘果で～

### ■ ネック果の発生

「愛媛果試第 28 号」の施設栽培では、開花期の温度管理等によって果梗部が飛び出るネックの発生が見られ、品質低下の要因となっています。

そこで、幼果期から果実の生育を継時的に調査した結果、写真 1 のように、5 月の幼果の時点でネックの発生が見られた果実は、10 月下旬の収穫時にもネックは消えませんでした。

### ■ 果形をよく確認してから荒摘果

このため、5 月下旬から 6 月上旬の荒摘果時に、写真 2 の③のような強度のネック果を除去することで、収穫時のネック果を大幅に減少させることができることを確認しました。

大玉果の生産のためには、大きな果実を残すことも大切ですが、ネックの発生果は幼果期の太玉果に多い傾向がありますので、荒摘果の段階から果形に注意して摘果する必要があります。

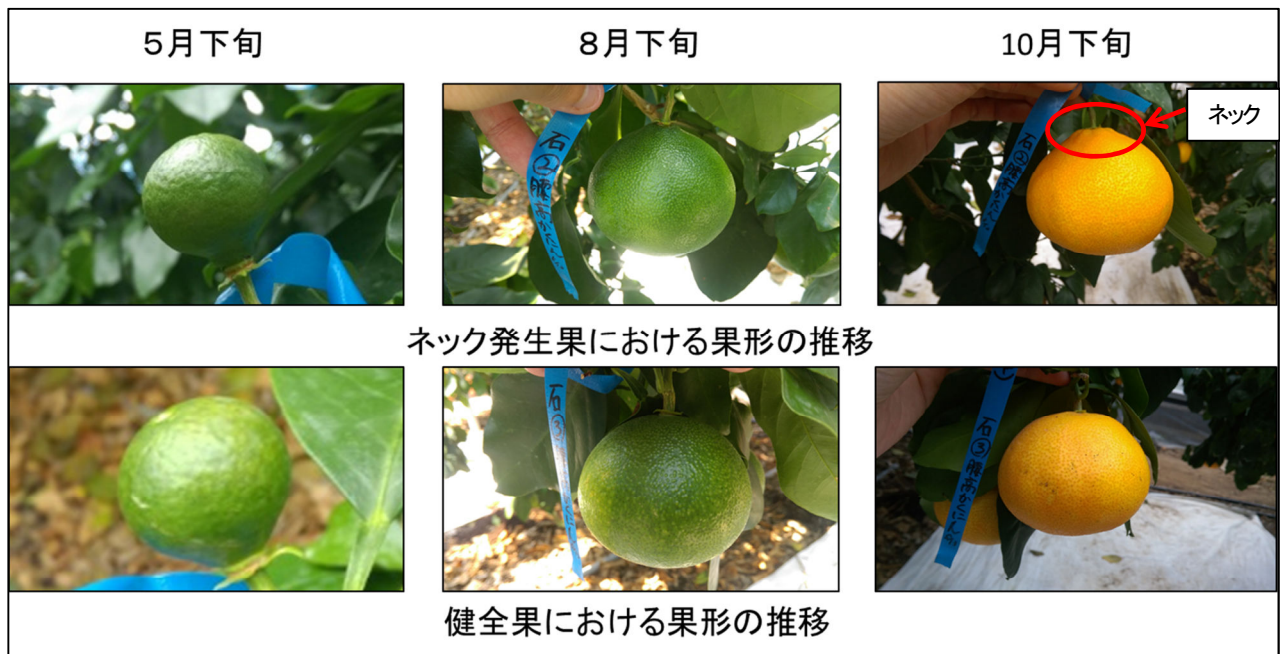


写真 1 「愛媛果試第 28 号」における果形の推移



①ネックのない果実      ②果実の生育に伴い、収穫時にはネックが見られなくなった果実      ③収穫時にもネックが見られる果実

写真 2 荒摘果時にみられる発生程度別のネック果